

Let's sing ぼきやぶらりー の語彙説明表

(3) 情けは人の為ならず

ため
情けを人にかけておけば、めぐりめぐって巡り巡って自分によい報いが来るとのこと。

(4) りっしん-しゅっせ【立身出世】

社会的に高い地位を得て、世に認められること。「—して故郷に錦を飾る」
にしきをかざる

(5) しょぎょう-むじょう【諸行無常】

仏教の根本主張の1つ。世の中の一切のものは常に変化し生しょうめつ滅して、永久不変なものはない ということ。

(6) 禍福は糾える縄の如し

かふくはあざなえるなわのごとし
史記(南越伝賛)災いと福とは、縄をより合わせたように入れかわり変転する。吉凶は糾える縄 の如し。

(7) きゃっ-かん【客観】

⇨主観。当事者ではなく、第三者の立場から観察し、考えること。

(11) しり-めつれつ【支離滅裂】

いつかんせい
物事に一貫性がなく、ばらばらで、まとまりのないこと。また、そのさま。「—な話」

(12) こうぜん-ぜつご【空前絶後】

過去にも例がなく、将来もありえないと思われること。きわめて珍しいこと。

(13)(14) ぜん-と【前途】

1 行く先。また、そこから目的地までの道のり。「—はほど遠い」「途中下車の—は無効になる 乗車券」2 将来。「会社の—を占う」「—を誤る」「—ある若者」「—有望」

ゆう-ぼう【有望】

将来に望みのあること。よくなる見込みのあること。また、そのさま。「前途—な青年」「—株」

た-なん【多難】

災難や困難の多いこと。また、そのさま。「—な(の)生涯を送る」「多事—」[類語] 険しい。

(15) 口車(くちぐるま)に乗・る

たくみ
言葉巧みに言われてだまされる。おだてに乗る。「—そあくひんって粗悪品を買わされる」

(16) 口(くち)から先に生ま・れる

たっしや
口数の多い者や口の達者な者をあざけていう言葉。

(17) 齒に衣着せぬ

思ったとおりをずけずけあやまと言う。「—ひひょうぬ批評」◆「衣(きぬ)」は衣服のこと。「齒に絹着せぬ」と書くのは誤り。

(18) ゆうじゅう-ふだん【優柔不断】

気が弱く決断力に乏しいこと。また、そのさま。「—な(の)態度」

(19) ふわ-らいどう【付和雷同】

一定の主義・主張がなく、安易に他の説に賛成すること。「多数派に一する」

◆「不和雷同」と書くのは誤り。

(20) 背水(はいすい)の陣

《「史記」淮陰侯伝の、漢の名将韓信が趙(ちょう)の軍と戦ったときに、わざと川を背にして陣をとり、味方に退却できないという決死の覚悟をさせ、敵を破ったという故事から》一歩もひけないような絶体絶命の状況。

(21) しめん-そか【四面楚歌】

《楚の項羽が漢の高祖に敗れて、垓下(がいか)で包囲されたとき、夜更けに四面の漢軍が盛んに楚の歌をうたうのを聞き、楚の民がすでに漢に降伏したと思い絶望したという、「史記」項羽本紀の故事から》

(22) 泣(な)いて馬謖(ばしょく)を斬(き)る

《中国の三国時代、蜀(しょく)の諸葛孔明(しょかつこうめい)は日ごろ重用していた臣下の馬謖が命に従わず魏に大敗したために、泣いて斬罪に処したという「蜀志」馬謖伝の故事から》規律を保つためには、たとえ愛する者であっても、違反者は厳しく処分することのたとえ。

(23) あと-の-まつり【後の祭り】

1 祭りのすんだ翌日。また、その日、神饌(しんせん)を下ろして飲食すること。後宴。

2 祭りのあとの山車(だし)のように、時機遅れで、むだなこと。手遅れ。「今さら悔やんでも—だ」

(24) 後悔(こうかい)先に立たず

してしまったことは、あとになってくやんでも取り返しがつかない。

(26) ぜったい-ぜつめい【絶体絶命】

どうにも逃れようのない、差し迫った状態や立場にあること。「一の苦境に追い込まれる」

◆「絶対絶命」と書くのは誤り。

(27) きき-いっぱつ【危機一髪】

髪の毛1本ほどのごくわずかな差で危機におちいりそうな危ない瀬戸際(せとぎわ)。「一のところで難を免れる」

(28) さいしょく-けんび【才色兼備】

すぐれた才能をもち、顔かたちも美しいこと。普通、女性にいう。

「一の花嫁」

(29) 人事(じんじ)を尽くして天命を待つ

力のあらん限りを尽くして、あとは静かに天命に任せる。

(30) ご-い【語彙】

《「彙」は集める意》

1 ある言語、ある地域・分野、ある人、ある作品など、それぞれで使われる単語の総体。「一の豊富な人」「学習基本一」

2 ある範囲の単語を集録し、配列した書物。